

令和8年度研究推進計画

廿日市市立阿品台東小学校

学校教育目標

夢や目標に向かい 共に伸びる

1 研究主題 「自ら学びたくなる教育活動の創造」 (3校共通研究主題)

深い学びを実現する体育科の授業づくり

～かかわり合いを通して「気づく・分かる楽しさ」から

「できる楽しさ」を実感できる学びを目指して～

2 研究主題設定の理由

本校は、中学校区共通の研究主題「自ら学びたくなる教育活動の創造」の基、サブテーマを設定し研究を進めてきた。一昨年度は「選択と自己決定」を、昨年度は「選択と自己決定、及び、対話」を取り入れ授業を通して研究主題に迫ってきた。昨年度は、研究教科を絞らず、授業の中に様々な形態の対話を工夫して取り入れ、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」を図りながら研究を進めてきた。

学びを選択する場や対話をしたくなる課題を設定することで、学習への意欲の高まりや安心感を得て自分の考えをもち表現できる児童が増えてきた。また、友達の話聞いて考えを広げたり話し合いながら課題解決したりしていけるようになり、かかわり合いを通じた学びが、学習の理解度や学級の人間関係の向上につながっていた。しかし、対話を通して考えを深めたり、資質・能力の向上につなげたりすることにはまだ課題があり、国語科を中心とし様々な教科のなかでさらに対話的な学びを継続して進めていく必要がある。

このような中、昨年度末に本校が令和9年度の広島県小学校体育科教育研究大会（大竹市・廿日市市）の提案校となることが決まった。そこで、今年度は、今まで積み上げてきた研究の成果・課題を活かし、研究教科を体育科に絞ることにした。体育科を研究するにあたって本校の児童の実態を把握・分析すると、次のことが明らかになった。

[技能面]

- ・運動経験の二極化があり、新体力テストでも県や国よりも低い項目(握力・上体起こし)がある。

[情意面]

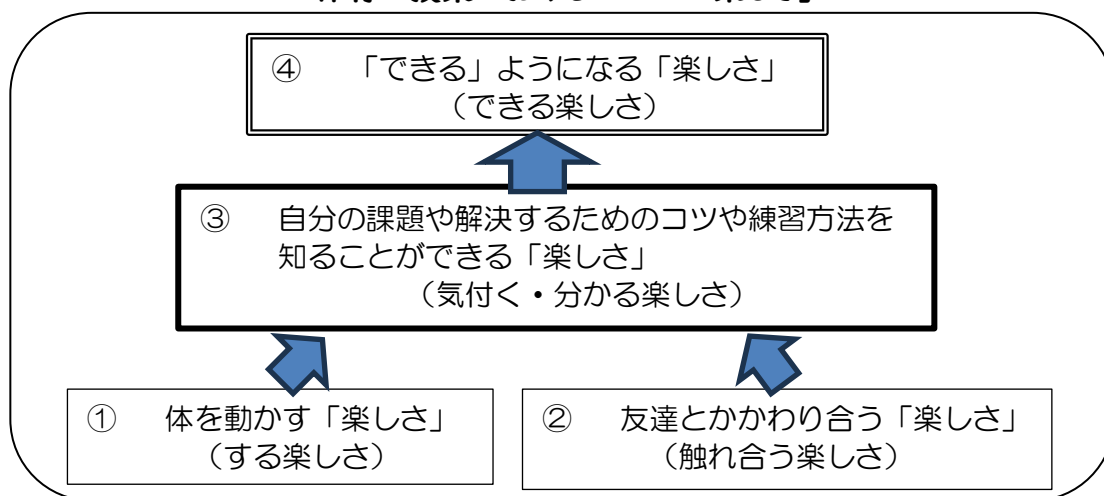
- ・体育の授業や体を動かすことが好きと肯定的にとらえている児童が多く、大縄跳び大会等体を動かす活動には、意欲的に参加する児童が多い。しかし、女子の一部は体育や体を動かすことに抵抗感をもっている児童がおり、肯定的にとらえている割合も国や県よりも男女共に低い。

このような実態を踏まえ、また、体育科の目標の中にある「生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する」ために必要な自主性・主体性の重要性を考え、今年度は、「全ての児童が自ら学びたくなる体育の授業」を目指していくことにした。

そのためには、全ての児童が体を動かすこと・体育の授業が「楽しい」と感じる事が重要であり、体育の授業がもっている様々な「楽しさ」を、まずは、①体を動かす「楽しさ」

(する楽しさ)、②友達とかかわり合う「楽しさ」(触れ合う楽しさ)、③かかわり合う中で気づかなかった自分の課題や、解決するためのコツや練習方法を知ることができる「楽しさ」(気づく・分かる楽しさ)の3つの楽しさに捉え、そして、この3つの楽しさを味わうことで、さらに主体的に体を動かし、④課題解決に向けて練習することで「できる」ようになる「楽しさ」(できる楽しさ)と、全体で大きく4つの楽しさに整理した。そして、その中でも、本校の実態や研究の積み上げから、「対話」＝「かかわり合い」を活かし、③の「気づかなかった自分の課題や、解決するためのコツや練習方法を知ることができる」ことを、研究主題にある「深い」と設定し、③の「気づく・分かる楽しさ」から「できる楽しさ」を全ての児童に保障する授業づくりを目指し、サブテーマを『～かかわり合いを通して「気づく・分かる楽しさ」から「できる楽しさ」を実感できる学びを目指して』として研究を始めることにした。

体育の授業における 4つの「楽しさ」



その中で、昨年度までの研究主題の「主体的な学び」を目指すうえで効果的であった「対話したくなる課題」を、体育の資質・能力である「課題(めあて)を見つけ、思考・判断し、他者に伝え解決していく」という学習形態の中に意図的に取り入れていき、研究を進めていくことにした。

さらに、「自分はこのやり方でやろう。」「今日は～でやったから上手くできるようになった。」「友だちの意見を聞くことで～次も聞いてみたい。」といった学び方についての振り返りを充実させることで、学びを自己調整できる力も身に付けさせていきたい。

最後に、これらの体育科の研究は、体育科だけでなく他教科にも広げていき、常に学校教育目標である「夢や目標を持ち、共に伸びる」児童の育成を目指すことを念頭に置いて研究を進めていく。

3 研究仮説

児童が、課題を設定し、課題解決に向けて友達と多様な「かかわり合い」を行うことで、多様な考え・コツに気づく・分かる(「楽しさ」(深い学び))を実感することができるであろう。(課題解決力)

さらに、課題を解決する方法を考え・やってみることで、課題に応じた多様な「できる」につながるであろう。

4 研究の視点

そこで今年度は、以下のような視点・内容での取組が必要であるとする。

〈体育科の授業改善〉

- ・ かかわり合うことで、気づかなかった自分の課題や、解決するためのコツや練習方法を知ることの「楽しさ」に気づかせる発問・学習展開の工夫
- ・ 主体的に学びに向かう単元や授業の導入や課題設定・選択できる場の工夫
- ・ 動きを確認したり、考えを交流したりするための ICT 機器の効果的活用
- ・ 楽しくないと感じる児童へのアセスメントを基にした具体的な手立ての工夫
- ・ 自己調整につながる振り返りの充実

〈他教科への応用〉

- ・ かかわり合うことで、主体的で深い学びを実現するための支援・指導内容の整理、実践

以上の視点を整理して次の大きな視点で研究を進める。

- (1) 児童が課題を設定し、課題解決に向けて友達と多様なかかわり合いを行うために、適切な発問や学習展開になっていたか。
- (2) 友達と多様にかわり合うことで、自分の課題や、解決するためのコツや練習方法を知ることなど、一人では気づかなかった新しい考えに気づく（楽しさ＝深い学び）ことができていたか。
- (3) 体育の授業を楽しいと感じられない児童にとって、アセスメントにより考えられた手立てが効果的だったか。

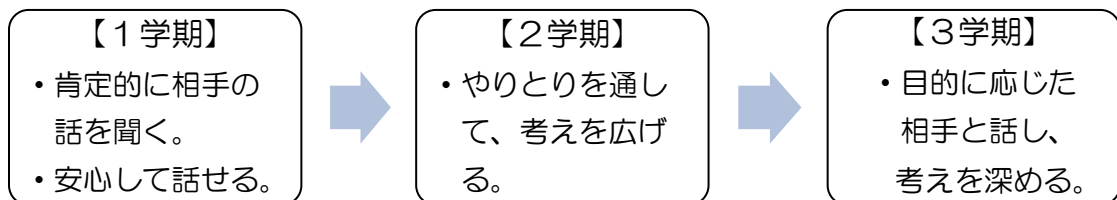
5 研究の内容 (◎…研究の中心として重点的に取り組む内容)

1	児童のアセスメントを通じた、かかわり合う場面のある授業づくり	<p>◎「課題設定」「課題解決のためのかかわり合い」の必然性を持たせる、単元構想シートの活用や単元計画の工夫（単元全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の導入、個人・グループ・学級等課題発見、整理、解決方法、まとめ方等を工夫する。 …研究の視点（1） <p>◎課題解決に向けて友達と多様なかかわり合いを行うための発問や場・教具、学習展開の工夫（1時間の授業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かかわり合うことが必要な発問、話し合う時の視点の明確化、まとめ方や発表の仕方を事前に指示し、目的を明確にし、見通しを持たせる。 ・ かかわり合いを促す、練習の場や教具の工夫を行う。 ・ かかわり合いを深める、ICT機器を効果的に活用する …研究の視点（1） <p>◎かかわり合う中で気づいたことの、客観的な見取り方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードやワークシート等、考えたことを表現させる場や教具を工夫し、見取れるようにする。 …研究の視点（2） <p>◎全職員による抽出児童のアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育科の授業が好きでない要因を分析し、楽しさに触れ・気づくために具体的な手立てを講じる。 …研究の視点（3）
---	--------------------------------	---

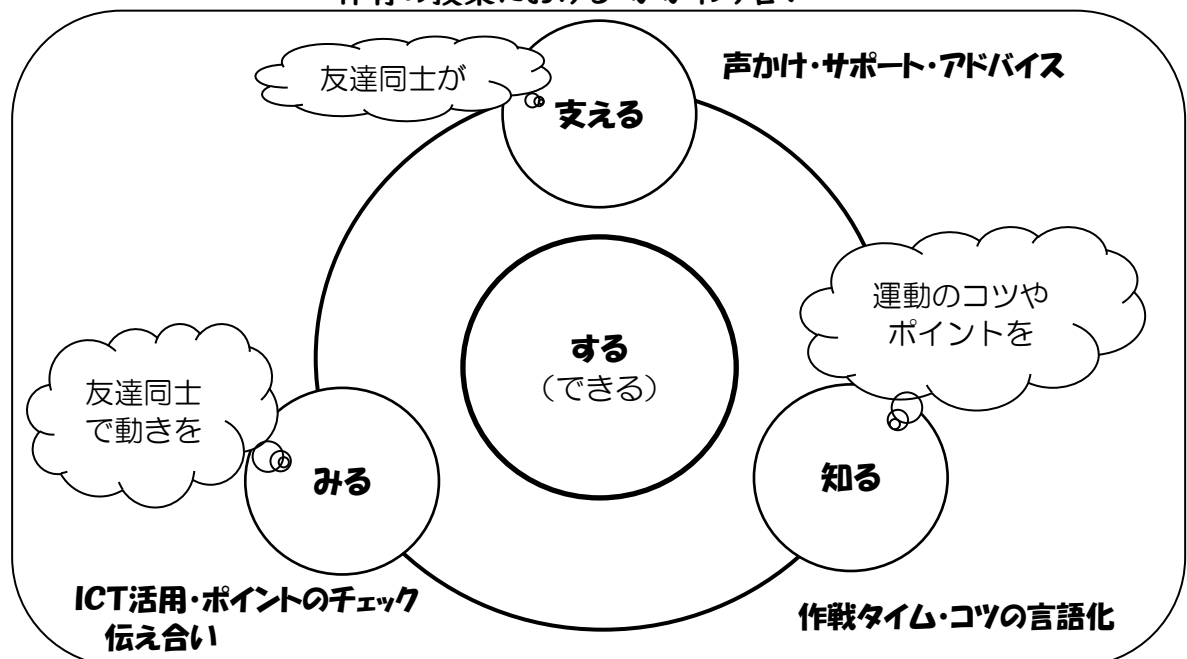
2	個別最適な学び 振り返りの充実	○個別最適な学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、全員が授業に参加できるような場や課題設定の工夫・手立てを考える。 ・技能面のゴール目標や課題設定の内容、練習の場・教具・使用する ICT 機器等、個人・グループに選択させる。 ○振り返りの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学びを自己調整できるようにする。
3	他教科への応用	○上の（１）◎の内３つの内容を、毎日授業のある国語科・算数科を中心に組み組んでいく。 ◎「課題設定」「課題解決のためのかかわり合い」の必然性を持たせる、単元構想シートの活用や単元計画の工夫（単元全体） ◎課題解決に向けて友達と多様なかかわり合いを行うための発問や場・教具、学習展開の工夫（１時間の授業） ◎かかわり合う中で気づいたことの、客観的な見取り方の工夫

6 本校の目指す「かかわり合い」

- ・目的意識を明確にして、他者と考えを交流する。
- ・話型や形式にとらわれず自分の言葉で生き生きと語り合える。
- ・相手の意見を否定せず安心してかかわることができ、かかわり合うことで新しい考えやコツややり方がわかり、そのことが「楽しい」と感じられる。
- ・子供同士のやりとりを通して、考えを広げたり深めたりできる。また、自分の考えをもてたり、協働的に課題を解決したりできる。
- ・子供たちが「話したくなる」「多様な意見が出る」学習課題や問いを投げかけ、必然性のある対話にする。
- ・形式は多様なかかわり合いを示す。二人で、固定されたグループ内で、同じ課題の人同士、自由に相手を探して等々。



体育の授業における かかわり合い



7 研究授業のあり方

○上の「3 研究仮説」「4 研究の視点」「5 研究の内容」を踏まえた授業を公開する。

- ・指導案には、上の内容について意図的に工夫した点を明確にした書き方とする。
- ・指導案の形式は別紙を参照する。

※研究授業をしない学年は、2学期末に実践報告を行う。

8 授業分析の視点

○上の「4 研究の視点」の(1)～(3)の視点で分析する。

- ・より客観的に分析できるように、具体的に見取れる項目を定めること。
(例…「研究の視点(2)について」→ワークシート記述内容より
「研究の視点(3)について」→授業後のアンケート結果より)

9 検証計画

	視点	方法	指標
1	かかわり合いの場が設定された授業実践ができたか。	・教職員アンケートにより検証する。 「かかわり合いの場が設定された授業実践ができたか。」	・教職員アンケートの肯定的評価の平均値が80%以上になる。
2	体育の授業や体を動かすことが楽しい・好きな児童が増えたか。	・児童アンケートにより検証する。 「外で運動したり遊んだりしている。」	・児童アンケートの肯定的評価の平均値が80%以上になる。
3	かかわり合いを通して、主体的に課題を解決しようとしていたか。	・児童アンケートにより検証する。 「課題の解決に向けて、自分で考え自分から進んで取り組んでいる。」	・児童アンケートの肯定的評価の平均値が80%以上になる。

10 育成を目指す資質・能力

資質・能力	目指す児童の姿		
	低学年	中学年	高学年
課題解決力	○進んで課題に取り組む。 ○課題解決に向けて、友達と協力する。	○進んで課題に取り組み、解決のための手順を考える。 ○課題解決に向けて、異なる意見や他者の考えを受け入れながら、協力して活動する。	○進んで課題に取り組み、解決のための手順を考え、行動する。 ○課題解決に向けて、自分らしさを発揮したり他者の考えを尊重したりしながら、協働する。
向上心 (目標を持った主体性)	○目標に向かってがんばる。 ○何事にもチャレンジする。	○目標を決め、それに向けて努力ができる。 ○失敗を恐れず、よりよくするために何事にもチャレンジする。	○よりよい自分を目指して目標をもち、努力し続ける。 ○自分の将来について考え、夢をもつ。 ○自分を振り返り、よりよい段階に向け、チャレンジする。

自己有用感	○友達・自分のよいところに気付く。 ○他の人のために仕事ができる。 ○「ありがとう」が言える。	○友達や自分のよさがわかり、それを表現する。 ○友達や学級の役に立つことを進んで行う。 ○感謝の気持ちを素直に伝える。	○お互いのよさや個性を認め合った行動をとる。 ○クラスや学校での自分の役割を自覚し、積極的に活動する。 ○当たり前のことにも感謝の気持ちを持ち、それを表現する。
-------	---	---	--

1 1 研修計画

○年間予定

月	日	曜日	研修内容
4	3	金	○学習ガイドブック「学問のすすめ」について ・「学習のきまり」（ノート使い方・発表の仕方 等） ・学習規律の意識統一
	7	火	○研究推進について ・今年度の研究について（大枠） ・前年度のアセスメントシート、標準学力調査結果の引継ぎ ○ICT活用について ・ロイロノート・ドリルプラネット
	13	月	「学習のきまり」週間 13日（月）～17日（金）
	23	木	研究推進計画について
5	上旬		児童アンケート・教職員アンケート（必要であれば）
	上旬		理論研修（県教委）
	26	火	指導案検討①（5年）
6	8	月	「学習のきまり週間」 8日（月）～12日（金）
	23	火	第1回校内授業研修（5年）
7	上旬		児童アンケート・教職員アンケート（1学期）
	24	金	1学期のまとめ
8	上旬		実技・理論研修
	上旬		体育科教材研究
	27	木	全国学力・学習状況調査の結果分析
9	7	月	「学習のきまり」週間 7日（月）～11日（金）

10	9	金	指導案検討②（6年）
	中旬		3校合同公開研究会 指導案検討1回目
	26	月	「学習のきまり」週間 26日（月）～30日（金）
	30	金	第2回校内授業研修（6年）
11	上旬		3校合同公開研究会 指導案検討2回目
	26	木	3校合同研修会（阿品台東小学校）（2・4年）
12	上旬		児童アンケート・教職員アンケート（2学期）
	24	木	2学期の取組の実践報告（2学期の実践報告）
1	7か 14	木	今年度のまとめ
	12	火	「学習のきまり」週間 12日（火）～18日（月）
	14 か 21	木	次年度に向けて
2	上旬		児童アンケート・教職員アンケート
	18	木	第3回校内授業研修（未定）
	25	木	標準学力調査の結果分析 「学習のきまり」（学問のすすめ）の見直し

令和8年度 阿品台東小学校 研究構想図

